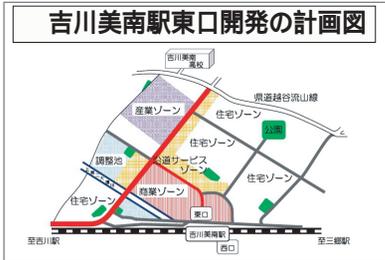


# 2. 今、目の前にある課題

## 吉川美南駅東口の開発

緑と教育と医療の街に！！

吉川美南駅から吉川美南高校へと続く東口側の開発が、急ピッチで進められています。しかし、その計画案は、「住宅をつくり、人口増加を目指す旧来通りの開発」であり、未来に向けた街づくりのビジョンがありません。



道路や公園の計画にも疑問が...

市が主体となり、約174億円（市・約44億円）もの事業。埼玉全県が注目している開発です。

もっと丁寧に地権者や市民の意見を集め、自然豊かな空間に教育・産業・医療・エネルギー・環境をテーマに、子供や高齢者の笑顔があふれ、全国の自治体が視察に訪れるような、吉川市の顔として誇れる街づくりを目指すべきです。【詳細は中面に】

## 新中学校建設

早期建設を！！

吉川美南地区に住む小学生の保護者とお話の中で、「中学校建設は、3人の小学生がいる私たち家族が吉川市に越してくる要件のひとつでした。その時には平成26年完成だったのが、建設未定に...。以前、選挙活動で家に周ってきた市議会議員に、『なぜ中学校が出来ないのか？』と聞いたところ、『不動産屋にだまされちゃったんだね』という答えでした。以前議会で教育長が話した内容に基づいてのハウスメーカーからの話でしたが、誰も責任をとらない感じがあり、吉川市って...と裏切られた気持ちになりました。」と。

同じ気持の保護者は多いのではないのでしょうか？庁舎建設に大きなお金をかけるよりも、未来を担う子供達への教育環境の整備こそ最優先すべきです。



美南地区に中学校早期建設を！！



例えばこんな街はどうだろう！！

【詳細は中面に】

画・栗田宗一氏

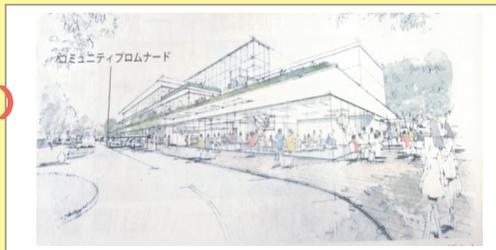
## 新庁舎建設

再考！！

老朽化、低い耐震性、手狭等を理由に、新庁舎が建設されます。災害時の指揮本部としての役割を考えれば、市庁舎はしっかりとした建造物であることは重要であり、僕も建設には賛成です。しかし総事業費が50億円を超える必要があるのでしょうか？（吉川市の一般会計予算は約190億円です。）

いま必要なのは、計画から工事までの手続きを急ピッチで進めることではなく、事業の見直しです。

今後の人口減、少子高齢化を考えれば、多くの市民が、年に数回程度の利用と思われる市庁舎に多額の建設費をかけるよりも、市民生活や子供達の未来にダイレクトにプラスになるもの（たとえば、左下記事にある新中学校建設など）を優先的に予算化すべきです。行政や議会の権威などは建物の豪華さではなく、市民との信頼関係で生み出されるものです。



完成予想図だが...、もっと質素で堅固なものを

## ワクチン接種問題

正常化へ！！

平成26年2月27日、公正取引委員会は、「吉川松伏医師会」が行っていたインフルエンザ価格のカルテルに対し、独占禁止法に違反するとして、「排除措置命令」を下しました。これにより、インフルエンザ価格の値下げを訴えた「大久保クリニック」の主張の正当性は認められた事になります。

しかし、問題は「医師会の現執行部」対「大久保クリニック」に留まりません。

市の保健事業が、「医師会・現執行部」に寄り添った形で進められた結果、「子供を抱えるお母さん達が直接公費でワクチン接種が受けられない」「市の助成金付きの子宮がん検診が受けられない」と市民が大きな負担を強いられているのです。

平成25年8月29日には、「これまで通りの公費助成を！」との要望書と約5700人分の請願署名が市に提出され、市議会にも請願が出されましたが不採択となりました。「これまで通りにしてほしい...」という、女性達や子育て世代の若い両親のささやかな願いが、なぜ行政に届かないのか？

「誰の為、何の為の行政か」ということが問われています。

価値ある未来を、共に

## フロリデーション問題

反対！！

虫歯予防策として、水道水へのフッ化物添加を進めようとしている吉川市。それに対して市民が約7500人分の反対署名を戸張市長に手渡しました。（平成25年8月22日）

しかし戸張市長は「フロリデーションの安全性や有効性は実証されており、今後も正しい情報の提供に努めたい」とコメント...

そのニュースがNHKでも取り上げられました。



NHKニュースでこの問題が全国に...

「水道水の公共性の高さ」「フッ素症の危険性」「虫歯数が減少している現状」の3点から、僕も反対を主張してきましたが、ここにきて戸張市長は「当面、事業化を進める予定は無い」と答弁。

しかし、事業推進には予算が付けられています。市民の反対や専門家からも疑問の声が上がる中、なぜ吉川市は「フロリデーション」を進めようとするのか疑問です。



多くの新聞で取り上げられています